

解答

□

- 問一 ウ
 問二 ウ
 問三 イ・オ
 問四 1 ウ 2 エ 3 ア 4 イ
 問五 ア・ウ・カ・キ
 問六 エ
 問七 傷つけられたような気持ち：ばあちゃんが自分で日記を処分してしまったことがさびしく、恨めしさを
 感じたから。

守られたみたいな気持ち：日記を見つけない本音を読んでしまうようなことにならないようにというおばあちゃんの気づかいを誇らしく感じたから。

問八 自分の日記は処分したのに、榎がおばあちゃんあてに書いた手紙は大切にとっておいてくれた（行為を）おばあちゃんの榎への愛情だ（と受け止めた）

□

- 問一 ① 浜辺 ② 異〔なる〕 ③ 関心 ④ 察知 ⑤ 想定 ⑥ 主張
 問二 1 ウ 2 オ 3 ア 4 エ 5 イ
 問三 野生児であるターザンは、人間でありながら自然の代弁者であり、自分もそうありたいと強く願っていたから。
 問四 I ウ II ウ III ア
 問五 ア
 問六 ひとりひとりは戦争、公害、原発などといった危険を止めようと考えても、集団としての人類は危険を引き起こしてしまうこと。
 問七 エ
 問八 あ 自然 い 文明
 問九 1 (4)
 2 少数民族のコサックの首領としてロシア側に立って戦い、マイノリティとマジョリティとのあいだで葛藤した人物だから。

解説

□

問七 おばあちゃんの日記がないことに気づいた場面で、母は「誇らしそうにも恨めしそうにも」「読めば、懐かしいだけじゃすまなくなる」と言っており、「わたし」も「きっとそうだろうな」と思っています。おばあちゃんの日記を読みたかったような読みたくなかったような、二人の複雑な気持ちを読み取りましょう。

□

問六 前の部分で「ひとりひとりは、何かしようという気になるかもしれないが、「集団になってしまったら・次々と転げ落ちていくことしかできなんじゃないか」と述べられています。
 問九 前の部分で、ロシアの少数民族であるコサックの首領としてエルマルがロシア側に立って戦い、「コサックとロシアのあいだで葛藤した」ことが述べられています。